

学位プログラムに対応するカリキュラムマップ（医学系学府 保健学専攻修士課程・博士後期課程 医用量子線科学分野）

教育の目的 Educational aims

【修士課程】多方面にわたる学際的、領域横断的な教育研究を推進することにより保健学の理念を追究し、教育と研究を通じて、臨床現場における診療放射線技術等の実践的指導者、将来の大学教育者研究者、企業での新しい医療機器開発者などへ発展する人材育成を行う。

【博士後期課程】修士課程のカリキュラムに加えて、国際的な視野を持ち創造性豊かな優れた研究・開発を独立して行う能力を有する人材を養成し、医用量子線科学分野の教育・研究拠点で活躍しリーダーとなる人材、実務領域における医療技術系の実践的指導者を輩出することを目的とする。

凡例 科目区分
(再掲は薄色表示)

| | | | | | |
|--------------|----------------|--------------|--------------|--------------|------|
| 修士課程 必修科目 | 修士課程 選択必修科目 | 修士課程 選択科目 | 博士課程 必修科目 | 博士課程 選択科目 | 研究指導 |
| 修士課程 必修科目 | 修士課程 選択必修科目 | 修士課程 選択科目 | 博士課程 必修科目 | 博士課程 選択科目 | 研究指導 |



| 学年 | | 修士課程 | | | 博士後期課程 | | | | |
|-------------|---|---|---------|------------|-------------|-----------|-------------|-------------|--|
| | 学修目標（修士課程） Learning Outcomes (Graduate Attribute Profiles) | 学修目標（博士後期課程） Learning Outcomes (Graduate Attribute Profiles) | 1年 | | 2年 | 1年 | | 2～3年 | |
| | | | 春学期/夏学期 | 秋学期/冬学期 | 通年 | 春学期/夏学期 | 秋学期/冬学期 | 通年 | |
| D. 実践 | MD.医用量子線科学分野における高度な知識や技術を駆使し自立して研究を遂行する能力、的確な判断力・洞察力を身につけた医療技術者・研究者として活躍できる。 | CD.医用量子線科学分野における高度な知識及び高度先進技術、グローバル化社会における保健医療の実践活動において自立して研究を遂行する能力、的確な判断力・洞察力を身につけた専門分野の管理者・実践的指導者として活躍できる。 | | | 医用量子線科学特別研究 | | | 保健学特別研究 | |
| C-2. 評価・創造 | MC-2.医用量子線科学分野の幅広い知識と新しい物理・工学的理論に基づいて、放射線技術学、医学物理学などの分野の教育及び創造的な研究に寄与できる。 | DC-2.深い洞察力をもって研究計画の立案、倫理問題の考察、データの収集、結果の解析およびその解釈と考察などを行い、放射線技術学、医学物理学などの分野の教育及び創造的な研究を独立して推進することができる。 | | 分子機能画像科学演習 | 医用量子線科学特別研究 | 量子線理工学Ⅰ | 量子線理工学Ⅱ | 保健学特別研究 | |
| | | | | 量子線治療科学演習 | | 臨床量子線科学Ⅰ | 臨床量子線科学Ⅱ | | |
| | | | | 医用画像情報科学演習 | | | | | |
| | | | | 医用量子線理工学演習 | | | | | |
| | | | | 放射線防護学演習 | | | | | |
| C-1. 適用・分析 | MC-1.新しい物理工学的原理に基づく診断・治療機器システムの開発に携わる放射線機器メーカーの開発や放射線防護ならびに管理の専門家として、知識と技術を発展的に活用できる。 | DC-1.最新の医学と先端的な物理工学的原理に基づく診断・治療機器システムの開発に携わる専門的な知識をさらに高め、放射線技術学、医学物理学に基づく検査機器システム、診断支援システム等を開発することができる。 | | 分子機能画像科学論 | | 量子線理工学Ⅰ | 量子線理工学Ⅱ | | |
| | | | | 量子線治療科学論 | | 臨床量子線科学Ⅰ | 臨床量子線科学Ⅱ | | |
| | | | | 放射線防護学 | | | | | |
| B. 知識・理解 | MB.臨床現場における将来の実践的指導者として必要な、放射線技術学、放射線医学、医学物理学の知識を深く理解し、説明できる。 | DB.医用量子線科学分野における実践活動の質的向上および新たな人材育成に貢献するために必要な、同領域における最新の知識と科学的研究方法について深く理解し、説明できる。 | | 基礎電磁波論 | | 量子線理工学Ⅰ | 量子線理工学Ⅱ | | |
| | | | | 基礎量子力学 | | 臨床量子線科学Ⅰ | 臨床量子線科学Ⅱ | | |
| | | | | 医学物理情報理論 | | | | | |
| | | | | 医用線量計測学 | | | | | |
| A-3. 表現・発表 | MA-3.研究成果を国内の学会で、英語でプレゼンテーションを行うことができる。 | DA-3.研究成果を国内外に向けて英文論文として発信し、他の研究機関の研究者との相互理解に必要なコミュニケーションをとることができる。 | | | 医用量子線科学特別研究 | | | 保健学特別研究 | |
| A-2. 協働 | MA-2.異なる分野の研究者とも円滑なコミュニケーションをとることによって、当該研究室のみならず、分野内の他研究室とも連携して研究を推進することができる。 | DA-2.研究成果を社会に還元して保健学に貢献するために、当該分野のみならず、他分野や学内外の他研究機関と連携して研究を推進することができる。 | | 国際社会とチーム医療 | | | 国際プレゼンテーション | | |
| | | | | | | ヘルスサイエンス論 | | | |
| A-1. 主体的な学び | MA-1.各専門領域において、自ら高度な知識と分析能力を身に付け、問題点を見出し、科学的・論理的・創造的・批判的に吟味・検討することができる。 | DA-1.各専門領域において、自ら高度な知識と分析能力を身に付け、独創的な問題点を見出し、科学的・論理的・創造的・批判的に吟味・検討することができる。 | | 先端医療論 | | | ヘルスサイエンス論 | | |
| | | | | 保健学研究論 | | | 国際プレゼンテーション | | |
| | | | | 保健医療とデータ科学 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | 医療と生命倫理 | | | | | |
| | 学修目標（修士課程） Learning Outcomes (Graduate Attribute Profiles) | 学修目標（博士後期課程） Learning Outcomes (Graduate Attribute Profiles) | 春学期/夏学期 | 秋学期/冬学期 | 通年 | 春学期/夏学期 | 秋学期/冬学期 | 通年 | |
| | | | 1年 | | 2年 | 1年 | | 2～3年 | |
| | 学年 | | 修士課程 | | | 博士後期課程 | | | |
| | アセスメント・プラン | | | | 中間発表会 | 修士最終試験 | | 中間発表会 予備審査会 | |

